

1 たかはし よしひこ
高橋禎彦 playtime 展示室3 [3F]

2021年 3月6日[土] ▶ 6月22日[火]

高橋禎彦(1958-)は、制作のなかで感じとったガラスの特性や質感をもとに、様々な方法で作品を作りあげています。特にホットワークによる作品は、溶けたガラスの動きを活かした柔らかなフォルムや滑らかな表面が、どこか謎めいた魅力ある姿を生み出し、その感触について見るものの想像を促します。本展では、ガラスの多彩な表情を引き出す高橋の作品の魅力に迫ります。



高橋禎彦《謎》2019年
作家蔵 撮影：斎城卓

2 サントリー美術館特別協力
ガラスに挑む一素材へのまなざし 展示室1・2 [2F]

2021年 4月10日[土] ▶ 6月22日[火]

20世紀半ばに胎動を始めた現代ガラスアートは、1980~90年代に世界的な興隆期を迎えます。本展では、国内有数のガラスコレクションを誇るサントリー美術館と、富山市の所蔵する現代ガラス作品を一堂に会し、この時代の活気に満ちたガラス芸術の様相をご紹介します。自らの扱う素材と真摯に向き合い、新たな造形表現を探索し続けた作家たちの挑戦をご覧ください。



渋谷良治《時の記憶 '90-V'》1990年
サントリー美術館所蔵 撮影：小嶋宏和、斎城卓

3 富山ガラス大賞展2021 展示室1-3 [2・3F]

2021年 7月10日[土] ▶ 10月3日[日]

本展は、世界の現代ガラスアートの最新の成果を集め、その発展に貢献するために開催されるトリエンナーレ形式の国際公募展です。2018年の初回に次いで2回目となる今回は、世界51の国と地域から1,126点の応募がありました。本展では、1次、2次審査を通過した作品約50点を展示します。無限の可能性を秘めた現代ガラスアートの今をお楽しみください。



4 富山ガラス造形研究所創立30周年記念展
未来へのかたち 展示室1-3 [2・3F]

2021年 10月23日[土] ▶ 2022年 1月23日[日]

富山ガラス造形研究所は、本市が35年来取り組み続けたガラスの街づくりの大きな一歩として、1991年に創設されました。以来本年3月末までに、540余名の卒業生を輩出しています。本展は創立30周年を記念し、作家育成に尽力した国内外の歴代教授陣と、ガラスアーティストとしてグローバルな活動を展開する卒業生らの作品を一堂に会します。ガラスアートの未来を予見させる表現豊かな優品の数々をお楽しみください。



5 カースティ・レイ (仮称)
展示室1-3 [2・3F]

2022年 3月11日[金] ▶ 6月26日[日]

オーストラリアの作家カースティ・レイは、都市を離れて野外をさすらう「フィールドワーク」を通して、土地と人のつながりがもつ意味を探求してきました。風景の静寂(しじま)に身を委ね、自らの歩むべき道を模索する彼女の物語は、ガラスの彫刻や写真、インスタレーションといった作品によって紡ぎだされます。過去最大にして日本初の個展となる本展では、最新作とともに、35年に及ぶ創作の軌跡をたどります。



カースティ・レイ《We always swam - river, lake, pool》2013年
作家蔵 撮影：David PATERSON

